

特集 新しく発生した病害虫

1 新しく発生した病害虫

人や物の移動が、距離、量ともに増大する一方の今日の日本は、新病害虫が侵入してくる危険にさらされている。食糧自給率が40%を下回り、外国からの輸入に食糧の大半を頼っている現状は容易に変わりそうもなく、その危険性は増すことはあっても減ることはなさそうである。本県でもそうした傾向が高まっている中で、病害と虫害に分けて本県で確認された新病害虫を紹介する。気象変動のせい病害虫の発生状況も変動が大きく、特異な発生も珍しくはない。中には、古くから知られてはいたがそれほど目立った発生をみなかったものが目立つようになり、知られていた種とは異なっていたりする場合もある。

こうした新病害虫や変則的に発生する病害虫に対してどのように対応する必要があるのか、今回の特集を参考にさせていただきたい。

いずれの場合にも共通するのは、発生する病害虫のことを可能な限り知ることである。効果のある対策は、病害虫の生態が詳しいほど容易であり、そうでない場合は非常に困難である。そうした病害虫の生態についての情報提供に防除対策の研究と併せて努めていきたい。

長田 靖之 (農業技セ・病害虫防除部)
(問い合わせ先 電話：0790-47-1222)

2 トマト黄化葉巻病 (TYLCV) の発生と対策

はじめに

トマト黄化葉巻病 (病原ウイルスTYLCV: Tomato yellow leaf curl virus) は東海、四国、九州などのトマト産地で被害が広がり、県内でも2006年10月に初発生を確認し、発生予察特殊報を発表した。その後の県下の発生状況を紹介する。

内容

県下の農業改良普及センターからの持ち込み株並びに病害虫防除部でTYLCVの発生しやすい抑制栽培のある地域で、既に発生が確認された市町及びその周辺地域を中心にサンプリングしたものを遺伝子診断法により診断した。また、今後の品種導入の参考に資するためウイルスの系統解析も行った。

2008年2月現在、県南部7市町でTYLCVの発生を確認した(図)。発生当初は瀬戸内沿岸の市町のみ発生であったが、内陸部へ発生が広がっている。ウイルスの系統は南あわじ市の1ほ場で長崎株が見つかったほかは土佐株であった。

防除対策の基本は罹病株の早期発見・抜き取り、

タバココナジラミの防除と侵入防止であるが、詳細はひょうごの農業技術No.152を参照いただきたい。

松浦 克成 (農業技セ・病害虫防除部)
(問い合わせ先: 電話: 0790-47-2448)

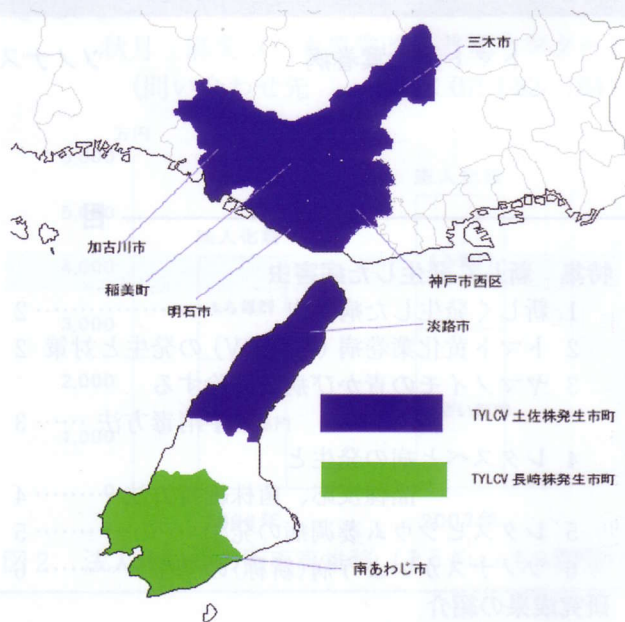


図 持ち込み及び現地調査にて判明したTYLCV発生市町とウイルスの系統分布